



昭和三十八年度 総合文化祭開催要項

一、趣旨
東郷村文化の向上と産業の発展のため毎年続けてきた文化祭も各種団体並びに一般村民の協力により、その内容も充実し益々成果を挙げている。本年度は更に広く一般の参加を求め、より文化行事を実施して村民に発表と鑑賞の機会を与えるとともに相互の融和親睦をはかり、一般と郷土の発展に努めるため総合文化祭を開催する。

二、主催
東郷村 東郷村教育委員会
三、期日
昭和38年12月7日8日
四、会場
東郷小学校 東郷中学校
五、実施方法及び内容
総合文化祭は部落文化祭と中央文化祭に分けて実施する。

(1)中央文化祭
A 展示 展示は部落文化祭における優秀な展示品と中央文化祭の展示品を併せて行う。
学芸品展、村勢郷土展、農協展、農産品展、林産品展、特産品展、衛生展、生花展、畜産展、婦人室
B 実演及び相談、実演は農機具その他、相談は育児相談、家族計画、健康相談
C 競技大会、小学児童ソフトボール、珠算競技、中学生ロードレース、青年駅伝
一般ボール
(2)部落文化祭 部落文化祭は中央文化祭に準じて行い

11月3日の村民排球大会寸景



上は男子チームの優勝をかけた熱戦。中は女子チームの優勝をかけた熱戦。下は応援の村人たち

先進地視察報告書(1)

東郷村議会産業経済部委員 松原千三郎

(1)羽茂町農業構造改善について
佐渡は、おきき節と佐土情話で余りにも有名な所であるが、それに加えて最近めきめき名声を高めて来たおきき柿で成功しているところがこの羽茂町である。羽茂町の面積は52平方キロで東西5.4キロ、南北8.5キロに11の大字部落を有しており戸数約一、一〇〇人口七、五〇〇人、うち農家数九七三戸、田六七五町

その他、葉菜及び根菜類 雑穀 豆類(2リットル) 果実類 みかん(15g)かき(6個)くり(2リットル) 林産物 しいたけ(4百g) 木炭(1俵) 特産物 ラミ(1kg) まゆ(2百g) 茶(2百g) 農産加工品 みそ(4百g) しょうゆ(0、4リットル)
六、行事日程
12月6日 出品物の受付、展示
12月7日 午前9時開演 ソフトボール、バレーボール、畜産展、珠算競技
12月8日 中学生ロードレース、青年駅伝、演芸会
展示物はすべて午後一時に閉展 十二時三十分表彰式
七、農林産品等の出品種目並びに数量
九、中央文化祭に出品するものは部落文化祭において三等までに入選したものと、これについて中央審査を行い表彰する。

町では柿が産地化の条件として有利なという観点から平無核柿(八珍柿)の奨励にふみきったことに始まる柿を撰んだ理由としては、先に列挙した基礎調査に依り柿が最も適地であったとの確信を得た市場への進出に良質、量質、集団化が条件とされていた。そこで昭和七年八珍柿の先進地、鶴岡市から高接更新用の穂木一五、〇〇本、苗木二、〇〇〇本を導入して村内で四十五名の接木技術者を育成し全村一斉更新を行なった。同年羽茂町が農村不況対策の第一回農林省経済更生指定村に選ばれたので、柿の増植を村の経済更生五年計画の中に織り込んだことと云われる。当時の農村振興対策も今日の農業構造改善事業と似たものであった様であるが、その後年次計画に従い継続的に増植が進められた結果、早くも昭和十一年六五〇箱(一箱二三、五〇kg)十トン(一箱二五、五〇kg)と十トン車二輛に満載されたおきき柿が北海道札幌市場へ初出荷されたのである。

昭和37年度柿園面積及び生産量

Table with 3 columns: 面積 (Area), 生産量 (Production), 販売量 (Sales). Rows include 結果樹園地 (50ha, 680トン, 570トン), 未結果樹園地 (130), and 計 (180, 680, 570).

増植計画及び見込生産量

Table with 6 columns: 年度 (Year), 増植面積 (Area), 生産数量 (Production). Rows include 38年 (210ha, 35,300), 39年 (260, 45,800), 40年 (300, 58,900), 45年 (300, 202,400), 50年 (300, 360,000), and 計 (Total).

高、今日も市場調査、先進地視察並びに流通機構の整備生産体制の強化等により、漸時おきき柿の名声は高まり将来の見通しに立つて施設の共同化、機械化に前進し、本年度遂にマンモス撰果場の完成を為し遂に羽茂町としては絶対不退転の体制を築き上げたのである。

私の考えた、いのしし退治法

福瀬 中田 実

稲が稔り、からいもが肥り始めると山のギャングの活躍が始まります。私も山田が多いために毎年一ヶ月位は獲るの番や柵を作ったりして山の無法者から米を護るに苦闘して来ましたが世の中が進んで来ると山の動物まで智慧がつくのか、今までやって来たオドシ材料では役に立たず、手を上げることもしばしばでした。こうしたことで毎日のしに泣かされて来ましたが今年はこのギャング退治に、子供が使う火薬玉を利用したので大変良い成績を挙げましたのでお役に立てばと思ってお知らせします。『フラッシュフラッカ』という商品名で売られている花火

一分間の面会

汽車がころもち速度を緩めたかと思つた瞬間、窓を覗いて用意の白ハンカチを差出して試みに一寸振ってみた。
岐阜駅で急行列車が一分間停車するというので、就中出たのださーと田舎の娘が果たして大垣市から岐阜駅迄出て来る勇気があつたかどうだろうか。
愈々汽車は駅へ近づいて来た。ハンカチを電報で連絡して置いた通りに力一杯振った。それにしても朝早い精が案外乗降客の少ないのは有難い。
研修旅行で上京中の四名の連れの者も席を並べて座っていたが彼等までソワソワして遂には一斉に立上るとわたしに重なり、窓から顔を出した。

点滴

十一月は文化の月であり農村では村祭りの月でもある。
一部屋長さんからの土産

をじつとみつめてみると遠くは弥生文化、飛鳥文化から近くは江戸文化、明治大正文化の姿が胸裏に往来して、世々に継承して世界に誇れるこの日本文化を、うちたててくれた祖先に對する感謝の念が油然と湧き出てわれらもまた、日本文化の優秀性を益々培って偉大な文化遺産を後孫に伝えたいの念に燃えているのである。
鎮守の森の太鼓の音が晩秋の空に響く。五穀豊穡をことごとく村祭りの太鼓の音の思いが蘇ってなつかしい産土の神は遠き祖先たちが心よりどこをどことして齊つきましたものである。だからよるこびにつけ、うれいにけつて祈り、この神に奉謝しつつ生業をつづけたのである。
この折る心、奉謝の心、これは世が移り人が代つても、変らぬ尊い心である。もしこの心を世の人達が失つたならば、世は末世となり、われわれの生活はまことに味気ないものになるであらう。
この前、編集子に「にんげんよし」の意味と使い方を教えてくれたハガキが来た。それによると、おとなしくて人の言とおりに人、わるい人、心のよい人、わるい人、心のよい人、善人、好士とある。
とにかく「人間よし」とは横着者、意地わる、策を弄する者の反対の人物を表現する言葉であることには間違いない。
すべて語そのものは死物であるがこれを人が使うことによって生きて来る。だから「人間よし」だけ抽出して解釈すれば辞書の解釈以上には出ない。
どんな人間関係にあるものが、何を表現するためにどんな場合に等々、その具休相に立った時、初めてその語の真の意味が見出されるのである。
だから人の言を聞く時はその真意が奈辺にあるかをよく考えて、正しくお聞きなす味つけが大事。
それは白く柿紅葉して映えており